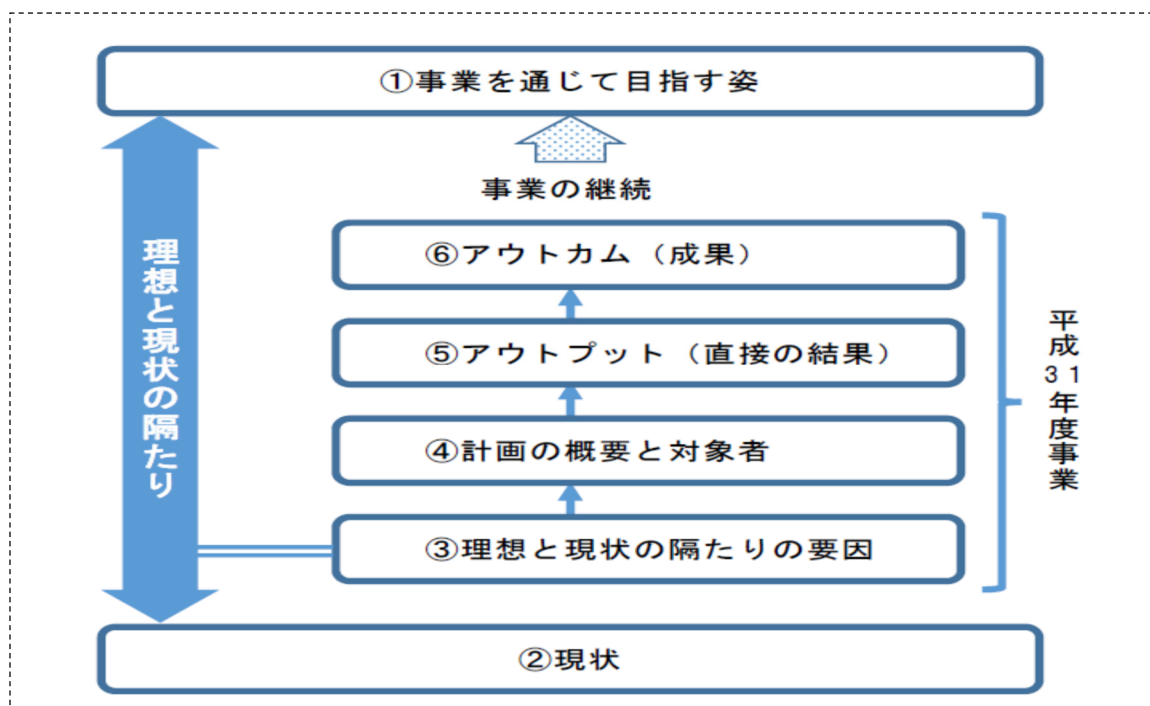


事業計画書

事業名		アントレプレナーシップ教育を取り入れた小中高生と地域の連携事業
グループ名		小田川流域の小中高生と地域の連携事業実行委員会
代表団体	名称	やかげ小中高こども連合
	住所	岡山県小田郡矢掛町矢掛 2543-1
	担当者	川上 公一
	電話番号	090-9508-7728
	E-mail	kawakami_kou1@yahoo.co.jp

◆ 記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



◆ アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。アウトカムには、アウトプットに直結した短期のものと、目指す姿へつながる長期のものがあります。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、〇〇〇というアウトプットが生じ、次にその成果として、△△△というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施→アウトプット→アウトカム

◆ アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム（短期）	アウトカム（長期）
学習支援事業	学習会の開催	月4回、各回20名参加	参加者の学習意欲の向上	家庭での学習習慣の定着
就労支援事業	冊子作成・配布	1千冊作成、800人に配布	就労に必要な知識の習得	就労の定着、経済的自立
保護者支援事業	居場所の運営	週2回、各回15名参加	育児の負担感の緩和	子どもの健やかな成長
移動支援事業	高齢者の送迎	週2回、各回5名利用	移動手段の選択肢の増加	移動困難者の減少

1 事業を通じて目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。事業の実施により、地域課題が改善に向かった後、「どのような地域・人が、どのような状態になっていることを目指すのか」について、具体的に記入してください。

年代を越えて子どもたちが主体的に活動し、地域社会になじみ、地域を支える社会人となるように育成するとともに、中山間地域の地域おこし・地域創生における若者の役割を自覚させ、地域の発展・充実・振興に資することめざします。子どもたちが将来に不安を感じることはない、明るい未来のあるまちづくり、地域づくりをこどもの立ち位置で進めていきます。

『復旧』から『復興』へそして『新しい価値の創造』へ。復興以降の段階こそ高校生などの若者が力を発揮できるのではないかと、発揮すべきではないかと思います。中山間部では『復旧』『復興』だけでは人口流出は止められません。『新しい価値の創造』には若者の意見や企画が必要です。もちろん行動も……。行動する若者をしっかり支えるおとなたちがいれば、新しい価値は生まれます。

やかげ小中高子ども連合が築き上げてきたノウハウを一般社団法人岡山次世代スクール協会に継承し、高梁川流域の復興に寄与します。



2 現状

1 「事業を通じて目指す姿」と比べて、現状はどのような状況にありますか。「どのような地域・人が、どのような状況にあるのか」について、具体的に記入してください。

「平成30年7月豪雨」により、矢掛町・倉敷市真備地区では小田川の堤防決壊に伴う浸水等で、各地で甚大な被害を受けました。中でも岡山県倉敷市では、高梁川と小田川という2本の川が合流する真備町エリアを中心に大きな被害が出ました。真備町内の小学校2校・中学校2校・高校1校が床上浸水等の被害を受け、仮設校舎などで運営しています。近隣の自治体のみなし仮設住宅や親戚の家、床上浸水し一部のインフラが整っていないながらも自宅の2階などで過ごされている方、9月末に完成した応急仮設住宅に入居された方々もいらっしゃいます。

7月豪雨で岡山県内でもっとも多く生徒が被災したのが矢掛高校ということは、あまり知られていません。岡山県立矢掛高等学校は、岡山県矢掛町に唯一ある高校。西日本豪雨災害により、県内で最も多い5人に1人の生徒が被災しました。自転車で通える高校へ行かねば。真備から矢掛高校への進学者が増えているのが現状です。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

1 「事業を通じて目指す姿」と2 「現状」との隔たりを生み出している、主な原因はどのようなものと考えますか。

西日本豪雨で、小田川流域は甚大な被害を受けました。被災したときにできた心のストレスは、そのままにすると埋まっていくが消えることはありません。あるとき、突然出てきたりするのです。起こったことをちゃんと受け止め、安心して前を向けるような、そんな場を作っていかなければなりません。

年代を越えて子どもたちが主体的に活動し、地域社会になじみ、地域を支える環境が西日本豪雨で壊滅的な打撃を受けたのです。

4 計画の概要と対象者（2019年度）

（1）事業の形式

次のいずれか該当する事業の形式に☑をしてください（両方でも可）。

- ☒ 実践を通じてグループ内でノウハウを受け継ぐ事業
- ☒ グループ内の団体それぞれが持つノウハウを持ち寄り、地域の新たな催しや地域資源を開発する事業

(2) 計画の概要

3 「**目指す姿と現状の隔たりの要因**」を取り除くため、どのような事業を実施しますか。

「どのような地域・人に対して、どのような活動を行うのか」について、簡潔に記入してください。(※計画の詳細は下記7に記入してください)。

単なるイベント開催で終わるのではなく、アントレプレナーシップ教育の実践・社会実験の場とします。キャリア教育の一環として、「起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）」や「起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）」を有する人材を育成するため、起業体験活動を実施するモデルを構築し普及を図ります。

5 アウトプット（直接の結果）

(1) 事業を通じて提供するサービス

事業を通じて、「どのような地域・人に対し、どのようなサービスを提供するのか」について、具体的に記入してください。

小田川流域の小中高生を対象としたワークショップの開催
 ライフモデルとなる若手起業家と小中高生の懇談
 「雲の上カフェ」「まびっこのためのまつり」の企画・折衝・準備
 「雲の上カフェ」「まびっこのためのまつり」の開催

(2) アウトプットを測る指標と数値目標

事業のアウトプットを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値		事業実施後の数値目標	
小中高生の事業参加者数	参加者	0人	参加者	100人
小中学生の参加のべ人数	のべ人数	0人	のべ人数	600人
イベントの来客数	来客数	0人	来客数	500人
イベントの収益	収益	0円	収益	100,000円

(3) アウトプットの測定方法

事業を通じて、アウトプットを測る指標をどのように測りますか。数値目標の達成状況を把握できる、具体的な方法を記入してください。

人数・収益を数える。

アウトカム（事業の成果）

（1）長期のアウトカム

1 「事業を通じて目指す姿」の一段階手前の状況はどのようなものですか。最終的に実現しようとしている、地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

こどもたちは、多様な立場の人や異世代の人とふれあうことで、地域社会における自分の役割や立ち位置を自覚します。その過程で、人との心の繋がりや社会との繋がりに気づき、自尊感情のある自立した人間へと成長していくのです。「かかわり」「つながり」を尊重するなかで、社会的に自立し、役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身につけていきます。

（2）短期のアウトカム

今年度の事業のアウトプットを通じて、実現したい成果はどのようなものですか。アウトプットから今年度中に導かれる地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

「雲の上カフェ」「まびっこのための秋まつり」を通して中山間地域の地域おこし・地域創生における若者の役割を自覚させ、地域の発展・充実・振興に資することめざします。こどもたちが将来に不安を感じることもない、明るい未来のあるまちづくり、地域づくりをこどもの立ち位置で進めていきます。それを実績として推薦やAO入試に生かし、高校や大学への進路選択に生かします。

（3）短期のアウトカムを測る指標と数値目標

事業のアウトカムを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
イベントの来客数	来客数 0人	来客数 500人
イベントの収益	収益 0円	収益 100,000円
進路実績		進路選択に反映 5名

の程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

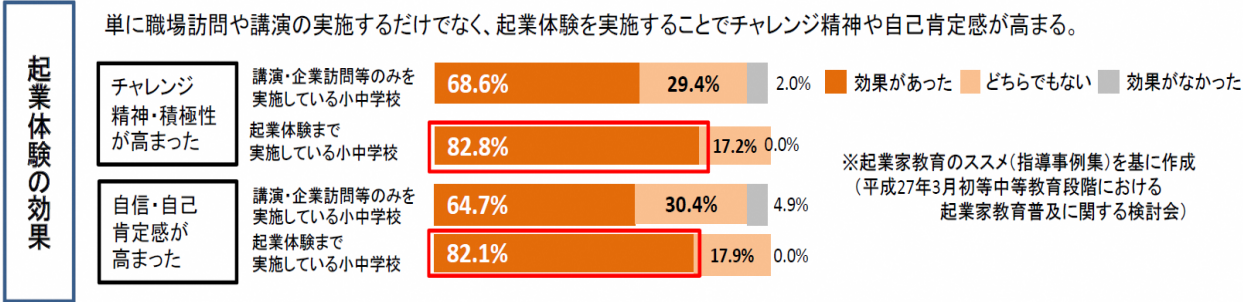
7 計画の詳細

（1）事業の具体的な内容

※内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらい等を具体的に記入してください。

アントレプレナーシップ教育とは、精神的にも経済的にも自立した個人として、問題意識を持ち、新しいことに挑戦することで既存の社会をよりよく変革していける人材の育成を目指すものです。

起業体験を行うモデルを構築する。具体的には、外部講師のサポートを得ながら、小中高生が模擬会社設立、商品開発、販売、決算といった会社の実体験を通じて、起業体験を行うモデルを構築していきます。



(平成 28 年度文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」)

こどもたちの発想・企画を生かしたイベントを開催します。高校生が、災害の語り部となることを通して自分の立ち位置を見つめなおし、自分の将来を考える活動を始めます。それが新しい価値の創造につながるのです。『復旧』から『復興』へそして『新しい価値の創造』へ。復興以降の段階こそ高校生などの若者が力を発揮できるのではないかと、発揮すべきではないかと思えます。中山間部では『復旧』『復興』だけでは人口流出は止められません。『新しい価値の創造』には若者の意見や企画が必要です。もちろん行動も・・・。

行動する若者をしっかり支えるおとなたちがいれば、新しい価値は生まれます。

(2) 事業のスケジュール（準備～実施～報告）

6 月	小中高生の参加者募集
7 月	「真備復興フェア」（仮称）
8 月	アントレプレナー教育講演会・ワークショップ ライフモデルとなる若手起業家と小中高生の懇談
9 月	メニューのアイデア出し 個人の目標・カフェの目標売上金額を設定
10 月	メニュー作りワークショップ 試作品作り メニュー決定 チームに分かれて準備
11 月	最終シュミレーション
12 月	「雲の上カフェ」「真備フェス」の開催 振り返り・まとめ
1 月	成果発表

8 ノウハウとその有効性

ノウハウとは、団体が過去に実施した活動の中で習得したり、成功や失敗の経験から得たりした、地域の課題解決に有効な手法や技術などの蓄積を言います。それぞれの団体が有するノウハウの内容と、それを事業にどのように活かせるのかについて、具体的に記入してください。

やかげ小中高こども連合(YKG60)は、やかげ小中高こども連合 YKG60 は、学校も年齢も異なるこどもたちが集まって、地域の課題や活性化について話し合い、イベントを行ったり、地域課題について取り組んだりする。それを大人がサポートするというスタイルは、全国へ発信するモデルケースである。2014 年矢掛町合併 60 周年記念助成を受け、やかげ小中高こども連合を結成した。

矢掛町小田山ノ上地区は人口 4 3 人高齢化率 8 割の干柿の里である。YKG60 では毎年 1 2 月に開催される干柿まつりで「雲の上カフェ」をオープンしてきた。昨年の反省を生かしたメニュー開発・調理。スムーズな接客のホール係。責任ある仕事を任されている小学生。学年、学校種の枠を超え、一人一人が自分の役割を持って活動できる場になった。店長・経理もすべてこどもたちであった。

平成 30 年 7 月豪雨以降、YKG60 は 9 月から放課後にこどもたちが集える空間【みんきち】を整備し、週日 16:30~19:30 に支援員 2 名配置し、学習・生活支援センターとしている。

岡山次世代スクール協会は、「21 世紀の学びを考える」の理念のもと、新しい教育の形を民間教育機関の立場で、岡山県内に創っていく活動を行っています。

現在行っている活動としては、「Youtube チャンネルによる情報発信」「合同授業」「夏期スタディツアー」「まなびのひろば（平成 30 年 7 月西日本豪雨復興支援事業）」「真備の中学生グループ「MSB30」プロデュース」などを行っております。

岡山次世代スクール協会は、倉敷市真備町を中心とする、西日本豪雨の被害にあった子どもたちを支援するため、子どもたちの居場所となる「まなびのひろば」を開設しました。また、【まびっこことつくる、まびっこのための秋まつり】を真備公民館にて開催しました。このお祭りは子どもたちのためのお祭りです。おいしい食べ物やおもしろい出店はもちろん、中学生には心配な進路相談、中高生には魅力的な大人に出会うワークショップなども企画しています。「まびっこ実行委員会」を組織し、一緒に企画を考えています。

9 事業完了後の取り組み

補助金の交付条件として、事業の完了後 1 年以内に、事業の成果を活かした取り組みを実施することとしています。事業の成果が継続して地域に根付くのに有効な取り組みであれば、

その規模や内容は問いません。事業完了後に予定している取り組みの内容を具体的に記入してください。

(1) 事業の実施主体となる団体名

一般社団法人岡山次世代スクール協会

(2) 事業完了後の取り組みの概要

こどもたちの発想・企画を生かしたイベントを開催します。高校生が、災害の語り部となることを通して自分の立ち位置を見つめなおし、自分の将来を考える活動を始めます。それが新しい価値の創造につながるのです。

『復旧』から『復興』へそして『新しい価値の創造』へ。復興以降の段階こそ高校生などの若者が力を発揮できるのではないか、発揮すべきではないかと思います。中山間部では『復旧』『復興』だけでは人口流出は止められません。『新しい価値の創造』には若者の意見や企画が必要です。もちろん行動も……。行動する若者をしっかり支えるおとなたちがいれば、新しい価値は生まれます。

おとなが企画して募集し、「楽しかった」で終わるイベント。今までの流れでした。これでは新しい価値は生まれません。「参加」から「参画」へ。すべてこどもたちによるイベントを開催していきます。

収支予算書

	所属・役職	氏名
経理責任者	代表理事	井辻 美緒
経理担当者	理事 事務局	川上 公一

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
補助金		650,000	※千円未満切り捨て, 上限 750 千円
その他		0	
収入合計		650,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
人件費	イベントスタッフ	54,000	900 円×6 時間×10 名
	イベントスタッフ	36,000	900 円×8 時間× 5 名
謝金	講師謝金	50,000	イベント時、講師派遣
	講師謝金	50,000	干柿づくり講習
	講師謝金	10,000	商品試作指導
	講師謝金	50,000	アントレプレナーシップ
旅費交通費	講師交通費	20,000	2 名分 (神戸⇄岡山を予定)
	スタッフ交通費	10,000	1000 円×10 名 (イベント時)
消耗品費	事務用品	8,000	
	用紙・	20,000	
印刷製本費	チラシ印刷	50,000	カラー両面 5000 部を予定
通信運搬費		1,000	郵券・宅配
保険料	イベント保険	6,000	レクリエーション保険加入予定
使用料・賃借料	貸切バス代	180000	60,000×3
	イベント会場費	40,000	一日利用
	会議会場費	15,000	
委託料	チラシデザイン	50,000	デザイナーへのデザイン料として
対象経費計		650,000	
食糧費		0	
対象外経費計		0	
支出合計		650,000	(収入合計と一致)